

第1回公立岩瀬病院経営強化プラン評価委員会会議録（概要）

I. 日時 令和6年7月25日（水）

13:30～15:00

II. 場所 公立岩瀬病院 外来棟会議室（3階）

III. 出席者

【委員】（10名）

（出席委員6名）

須賀川市社会福祉協議会	石井正廣
須賀川薬剤師会	細井正彦
須賀川市健康づくり推進員会	熊田代志江
鏡石町健康推進員会	飛沢住未子
玉川村健康づくり推進協議会	草野亀雄
須賀川市子育サークル連絡協議会	円谷理恵

（欠席委員4名）

須賀川医師会	矢部順一
須賀川歯科医師会	鈴木幸一
天栄村国民健康保険運営委員会	小針光治
須賀川商工会議所女性会	堀江康子

【公立岩瀬病院企業団】（6名）

企業長	石堂伸二
院長	土屋貴男
副院長兼看護部長	伊藤恵美
事務長	塩田 卓
事務次長兼医事課長	有賀直明
総務課長	續橋彰夫

IV. 会議

1. 企業長あいさつ

皆さん、こんにちは。

只今、皆様方に対しまして、「公立岩瀬病院経営強化プラン評価委員会委員」としてご委嘱を申し上げましたところ、快くご承引をいただきまして、厚く御礼を申し上げます。

本委員会は、本年度を初年度とする当院の運営指針である「公立岩瀬病院経営強化プラン」について、その進捗状況や経営のあり方などについて、ご意見やご提言をいただきながら検証し、計画の着実な実施と、病院経営の改善を図ることを目的に設置するものであります。

当院といたしましては、これまで、国が示す様々なガイドラインなどに基づきまして、平成29年4月に「新公立岩瀬病院改革プラン」を策定し、「経営の効率化」や「地域医療構想を踏まえた役割の明確化」などに取り組んでまいりました。

しかしながら、現在の病院を取り巻く環境は、医師等の人材確保や少子・高齢化進展に伴う医療需要の変化、更には、物価の高騰が続き、材料費や光熱費などの医業費用も増加するなど、経営状況は大変厳しい状態が続いています。

こうした中、国は令和4年3月に『持続可能な地域医療提供体制を確立するための公立病院経営強化ガイドライン』を示し、令和5年までに「経営強化プラン」を策定し、実行することを各公立病院に義務付けたところであります。

このため、当院といたしましても、これまでの「新公立岩瀬病院改革プラン」の進捗状況などを踏まえるとともに、県の「地域医療構想」や、「第8次福島県医療計画」、更には、現在の医療を取り巻く環境などを勘案しながら、令和9年度までの4年間を計画期間とする「公立岩瀬病院経営強化プラン」を策定したところであります。

本プランの概要につきましては、後ほど事務局から説明があると思いますが、本プランに掲げる「当院の果たすべき役割」につきましては、「地域包括ケアシステムの中心的な役割を担い、専門性の高い医療を提供する「急性期機能」を病院機能の中軸とし、地域包括ケア病棟（回復期機能）を効率的に運用し、在宅復帰を支援するほか、新生児対応医療の高度急性期化を見据えております。

当院といたしましては、引き続き、本プランに基づき、今後も当地域における中核病院として、地域の医療機関と連携を図りながら、地域の皆様から「選ばれ、そして選ばれ続ける病院づくり」を職員一丸となって取り組んで参りますので、委員皆様の特段のご理解とご支援をお願いいたします。

本日は、本委員会初めての会議でありますので「公立岩瀬病院経営強化プラン」の概要について説明させていただき、その後に、意見交換をさせていただきたいと存じますので、委員の皆様方には忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げ、あいさつとさせていただきます。

どうぞよろしくお願ひいたします。

2. 公立岩瀬病院経営強化プラン評価委員会設置要綱について

事務局から説明を行った。

3. 役員選出

委員の互選により、会長は石井正廣、副会長は細井正彦に決定した。

4. 議題

(1) 公立岩瀬病院経営強化プランについて

事務局から説明を行った。

(2) その他

5. 質疑・意見等

○会長；公立岩瀬病院経営強化プラン第4-4の働き方改革関係についてです。こちらの表に医師数・看護師数の職員数が載っているのですが、医師の定数、看護師の定数というのは決まっているのでしょうか。

●当局；医師の定数というのは、病院で特に上限は決まっているものではございません。

全国の急性期病院で当院と同じくらいの病床数で換算しますと、全国平均では279床に対して医師数が52～53名となっております。当院は現在41名の医師数であり、全国平均より少ない医師で頑張っている状況です。医師確保に向けて医師招聘活動を積極的に行っておりますが、地方の病院はどこも医師不足であり、なかなか医師確保できない状況です。

●当局；ただいまの回答に補足をさせていただきますと、病院全体としては条例で職員の定数は定められております。ただし院長からあったとおり、職種ごとの

内訳は定めておりません。

○委員；意見を述べさせていただきます。

私達も市民として公立岩瀬病院を利用している中で、評価委員会の委員となつたわけですから、病院側から私たちに委員として何かできることを提示していただければいいなと思います。例えば、住民向けの病院に対するアンケートなどを作成していただければ、委員それぞれの立場で住民の病院に対する意見等を聞くことができて、お役に立てるのではないかと考えております。

●当局；貴重な意見をいただきまして、ありがとうございます。

我々の計画を経営強化プランとして示して、その進捗状況を委員皆様方に評価をしていただき、日々改善をしながら計画を進めていくというのがこの委員会の趣旨であります。その中でおっしゃる通り、評価する委員の立場から何か病院に求めるものや、評価をする上で知りたい情報などがあれば我々に対して提案していただきたいと思います。委員の皆様にはそういう形でご支援していただければ非常にありがたいなと思います。

○会長；この評価委員会は年に1回だけの開催ですから、住民の皆様からの病院に対する意見などを聞きした際には、委員の方は病院にその都度お話ししていただければと思います。よろしくお願ひいたします。

●当局；ぜひお願いしたいと思います。当院では、年に1度患者さんの満足度調査というのを行っております。その結果ですと、ここ数年は毎年80%以上の方に満足、大変満足の結果をいただいているのですが、その対象が当院を利用していただいている患者様やその家族ですので、当院を利用していない方など住民の皆様の意見を教えていただければ、非常に貴重な意見となりますので、よろしくお願ひいたします。

●当局；当院の産科婦人科では産科婦人科Instagramを開設しており、様々な情報発信を行っております。また地域の各業者さん向けにも勉強会を開催しております。例えば、タクシーを利用して妊婦の方が病院を受診することもあるため、タクシー会社向けに妊婦を乗車させる際の注意点などについての勉強会も開催しております。助産師も色々対応できるように勉強しておりますし、NICU・GCUもあり、医療の面では安心できるようなスタッフや設備が整っていると思います。産科婦人科は特に口コミも大事だと思っておりますので、

委員の皆様にも病院の良いところを地域住民の方々にお伝えしていただければ幸いですので、よろしくお願ひいたします。

○委員；子育てサークル連絡協議会としてママ達の結構シビアな声をよく聞くことがあります。コロナ禍で一般的の発熱しているお子さんは受診できないというところから始まって、病院に電話をしても受診を断られる状況がずっと続いており、でもいつからか一般のお子さんも受診できるようになっていたということもあり、そのような小児科の情報は明確にホームページ等に掲載していただければ、大変助かると思います。

ママ達にとっては自分のことよりも、我が子のことに対してとてもシビアであり、心配も大きくてメンタル的にも不安なところが大きいので、受診を冷たく断られたという想いになってしまふことが多いと思います。

小児科の医師数が減っているといこともあり、大変な状況ではあるとは思いますが、ママ達からは、以前みたいにもっと頼れる公立岩瀬病院の小児科であって欲しいという意見をすごくたくさん聞くので、発言させていただきました。

●当局；ありがとうございます。今いただいたお話の一部は私の耳にも届いておりまして、地域のお母様方から、どうして公立岩瀬病院では診てくれないのだとうようなお話を伺う機会がありました。

当院の小児科の医師は、以前は4名体制で対応しておりましたが、医大の人事異動などもありまして一時2名体制になって、現在は3名体制となっております。その中で、産科婦人科もありますからNICUの新生児を診たり、小児科の入院患者を診たりしているので、状況によってはどうしても外来診療に手が回らないということもありました。

現在の3名体制からまた増員できるように医師招聘活動を行っているところであります。地域のお子様方を守っていかなければなりませんので、できるだけ当院で診察できるような体制を築いていきたいと思います。

(当局から、「公立岩瀬病院からのお知らせ」のチラシと手術支援ロボットについて説明)

○委員；手術支援ロボットについて質問です。この手術を受けると診療報酬点数の増加となると思うのですが、高額となり手術を受けたくても皆さんのが受けられ

ないという状況にはなってしまうのでしょうか。

●当局；確かに手術支援ロボットによる手術を受けることで、医療費は高額になりますが、入院で手術を受ける患者さんのほとんどが医療費の上限に達しますので、実際の患者さんの負担額にはほとんど影響はないことになります。

●当局；現在はマイナンバーカードで受付することで、高額医療の限度額の情報も病院で分かる仕組みになっていますので、今までのように患者さんから各保険者に申請しなくても、病院からは限度額以上の請求はしないようになっております。

○会長；最後に公立岩瀬病院の待ち時間について発言させていただきます。クリニックなどの個人病院では待ち時間について尋ねると大体何分くらい待ってくださいという返答があるのですが、公立岩瀬病院では、例えば朝9時頃来てくださいと言われて、終わるのが13時頃になることもあります。あとどのくらいかかりますかって聞いても、ちょっと分からぬですねと言われることがあるという声が聞かれています。大体の時間を教えてもらえば、半日待つ必要もないというような声も聞かれてますので、おおよそで結構ですので、大体の待ち時間を表示できないのかというのは以前から疑問に思っていました。

いろいろな事情はあると思いますが、待ち時間等を表示することは可能なのでしょうか。

●当局；石井会長からいただいた意見は私のところにも届いております。診察の予約枠を設けて予約時間を提示しているのですが、初診の患者さんや急患の方がいらっしゃいますと、予約時間が大幅にずれることは確かにあります。そのような場合には医師以外にもいろいろなスタッフから患者さんに対してちょっと時間がかかりますなどの声掛けをするなど情報を発信するようにはしているのですが、今いただいた意見のとおりなかなかその辺が十分に行われていないということだと思いますので、これから少しでも改善していきたいと思っております。

●当局；若干補足させていただきますと、これから医療DXとか患者さんファーストという形を考えていきますと、やはり予約システム等の整備は必要になってくると考えております。その中でLINEを利用した予約システムや、患者さん個人が自分のスマホで自分の順番まであと何人待ちであるかが分かる

システムなど様々な方法はありますので、今後働き方改革などとも合わせて進めていきたいと思いますし、導入にあたっては、どのくらいの費用がかかるのかなど総合的に勘案して取り組んでいきますので、ご理解いただければと思います。

6. 閉会